

2022 年度 メディカルサポート部バスケットボール競技班 活動報告

1. メディカルサポート活動

1) 実施大会

下記 4 大会、全試合に参加した。

第 76 回関東高等学校バスケットボール選手権大会県予選会（県総体）	: 3 日間 16 試合
第 77 回全国高等学校総合体育大会県予選会（インターハイ）	: 3 日間 14 試合
第 75 回全国高等学校バスケットボール選手権大会県予選会（ウィンターカップ）	: 2 日間 6 試合
第 33 回関東高等学校バスケットボール新人大会県予選会（新人大会）	: 4 日間 36 試合

2) サポート活動内容

本年度のサポート活動は、標準予防策に加えて、新しい生活様式、社会経済活動再開に向けたガイドラインに基づく要請、新型コロナウイルス感染症に係る群馬県高体連主催大会等実施ガイドライン【Ver.7】に基づいた「バスケットボールメディカルサポートにおける感染予防マニュアル」に則り、実施した。

また、活動の流れで例年と異なる点として、高体連の感染対策とされた午前午後での大会本部スタッフの入れ替えに準じて、メディカルスタッフも基本的に入れ替えを実施した。入場・退場時間が決まっており試合前後のコンディショニング対応の時間が限られた。

① 救護活動

試合中の救護活動として、スタッフがコート脇にて待機し、試合中の傷害に対する応急処置などを行った。また、円滑に救護活動を実施する為の準備として、各会場にて Emergency Action Plan に基づき、AED や担架の保管場所を確認し、傷害発生時を想定した搬送ルートのシミュレーションを行った。

② コンディショニング

ウィンターカップ以降、会場にブースを設営し試合前後に選手のテーピング等のコンディショニング依頼に対応した。

3) 参加スタッフ数（表 1）

メインスタッフ延べ 22 名（実数 10 名）、アシスタントスタッフ延べ 31 名（実数 17 名）が参加した。

4) 対応件数・回数（表 1）

選手の対応件数は計 16 件、対応回数は延べ 33 回であった。

表 1 メディカルサポート概要（選手のみ）

	日数 (日)	試合数 (試合)	スタッフ数 (名) メイン / アシスタント	対応件数 (件)	対応回数 (回)
県総体	3	16	3 / 7	1	1
インターハイ	3	14	5 / 13	1	2
選抜大会	2	6	4 / 6	1	2
新人大会	4	36	10 / 5	13	28
計	12	168	22 / 31	16	33

5) 傷害内容と傷害部位（表 2）

実施大会では、関節構成体損傷が 7 件、骨折が 3 件と多くみられた。特に多いものとしては、足関節の関節構成体損傷が 4 件であった。また、脳震盪疑いに至らなかったが頭部打撲に対する試合中の対応が 1 件あった。

表 2 実施大会の傷害部位別件数（選手のみ）

	頭部	顔面	手関節	手指	大腿部	膝関節	下腿部	足関節	計
打撲	1	-	-	-	-	-	-	-	1
出血	-	2	-	-	-	-	-	-	2
骨折	-	-	-	1	-	-	-	2	3
筋痙攣	-	-	-	-	1	-	2	-	3
関節構成体損傷	-	-	1	1	-	1	-	4	7
計	1	2	1	2	1	1	2	6	16

6) メディカルサポートの対応内容（表 3）

県内大会における対応内容の内訳は、テーピング 11 回、ストレッチ 2 回、アイシング 3 回、止血処置 1 回、徒手療法 2 回、傷害確認・対処方法の指導 13 回であった。

表 3 メディカルサポートの対応内容（選手のみ）

	テーピング	ストレッチ	アイシング	止血処置	徒手療法	(A)	その他	計
県総体	1	-	-	-	-	-	-	1
インターハイ	2	-	-	-	-	-	-	2
ウィンター	-	-	-	1	-	-	1	2
新人大会	8	2	3	-	2	13	-	28
計（回）	11	2	3	1	2	13	1	33

(A) : 傷害確認・対処方法の指導

2. 教育・指導体制

1) メディカルサポートにおいて

本年度は、数年ぶりもしくは初参加の参加者がほとんどであったため、バスケメディカルサポート1日の流れの再確認、脳震盪疑いの選手への対応フローチャート表の確認や対応の多い症例を用いて病態や対応の注意点などの指導を重視した。アシスタントスタッフと指導可能なメインスタッフの育成のため、救護活動やコンディショニングに関するシミュレーションを通じて準備してもらうことを目的とした。

2) 定期勉強会

各大会前に定期勉強会を計4回開催した。開催形式はオンラインでの講義・ディスカッションを中心としたが、感染状況に合わせて対面でのテーピング実技練習も実施した。内容は、足関節捻挫の概要・評価・対応や脳震盪の対応、応急処置、テーピングなどスポーツ現場に必要な知識や対応について学び、選手対応へ活かしてもらうことを目的とした。

① 県総体前勉強会

【日時】2022年5月10日（火）19時30分～21時00分

【開催方式】オンライン開催（Zoom meeting）

【内容】応急処置について

バスケメディカルサポートの傷害傾向から応急処置（頭部外傷、止血法）を説明

実際に応急処置を要した症例検討（①脳震盪疑い、②ACL損傷）、ディスカッションを実施

【参加人数】計18名（その内県総体への参加者8名）

② インターハイ前勉強会

【日時】2022年6月14日（火）19時30分～21時00分

【開催方式】オンライン開催（Zoom meeting）

【内容】足関節捻挫について

足関節捻挫の概要、評価、対応について（テーピング、RICE処置等）を実施

【参加人数】計20名（その内インターハイへの参加者12名）

③ ウインターカップ前勉強会

【日時】2022年10月25日（火）19時30分～21時00分

【開催方式】対面開催（あさくらスポーツリハビリテーションクリニック リハビリ室）

【内容】膝関節テーピング（受講料2000円：物品代として）

膝関節靱帯損傷の概要、評価、テーピング実技を実施

【参加人数】18名（その内ウインターカップへの参加者5名）

④ 新人大大会前勉強会

【日時】2023年1月13日（金）19時30分～21時00分

【開催方式】オンライン開催（Zoom meeting）

【内容】バスケメディカルサポート対応の流れや着眼点について

対応を想定した症例検討（①急性期足関節内反捻挫、②膝蓋腱炎）、ディスカッションを実施

【参加人数】12名（その内新人大大会への参加者10名）

3. まとめ

群馬県高校バスケットボールメディカルサポートは、2019 年度新人大会より新型コロナウイルス感染拡大防止のため依頼の中止が続いていたが、本年度は公共施設会場での活動から再開し、その後、新人大会から高校会場も含めた 3・4 回戦以降のサポート活動に戻った。高体連の感染対策とされた午前午後での大会本部スタッフの入れ替えに準じて、メディカルスタッフも入れ替えを行ったため、試合数に比して例年より多くのスタッフの参加となった。

対応件数は例年に比べ少ない傾向であった。要因として、サポート試合数が少なかったこと、トーナメント上位の試合で帯同トレーナーが多く在籍していること等が考えられた。しかし、ベスト 4 以上のチームでもトレーナーが帯同していないチームが男女ともに存在し、対応を求められたケースも存在したため、バスケメディカルサポートとしては来年度も継続して 3 回戦以降の試合で可能な限りサポート活動を実施していきたい。

継続した取り組みとして、Web ミーティングや現場にて **Emergency Action Plan** に基づき、AED や担架の保管場所を確認し、傷害発生時を想定した搬送ルートのシミュレーションを説明・実施した。重篤な傷害や対応数の多い症例が発生した際、円滑に対応することを念頭において引き続き準備していくとともに、アシスタントへの周知・指導を継続していきたい。

定期勉強会は各大会前に全 4 回開催した。内、オンライン開催を 3 回、対面開催を 1 回実施した。オンライン開催では、過去サポート活動から対応数が多い/対応が難しい症例を対象に応急処置へ焦点を当てたディスカッション、足関節捻挫に関する概要・評価・対応方法の確認、コロナ禍で実際の対応から遠のいたことで対応の流れの再考を目的に実施した。対面開催では、コロナ禍以降初の対面での勉強会となったため、感染対策を徹底した上で膝関節靱帯損傷に対するテーピング実技練習を実施した。

来年度の大会前定期勉強会に関しては、社会情勢によって対面での開催が可能であれば、継続してスタッフ間での情報・技術共有を図っていきたい。また、サポート活動に関しては、感染対策の体制に変化があると予想されるため、競技団体へ確認の上、必要な対策を準備して県内大会における 3 回戦以降のサポート活動を継続していきたい。